

## 令和3年度リンダウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書

参加会議： 第70回会議(3分野合同)

所属機関・部局・職名： 東京工業大学 物質理工学院 応用化学系 助教

氏名： 久保 智弘

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

全体的な印象として、多様で型にとらわれない講演が多かったと覚えている。その中でもノーベル賞受賞者の研究に対する熱意や発信力の高さは共通しており強く感銘を受けた。異分野の内容を理解するのに苦労した部分はあるものの、社会的波及効果や若手研究者に対するアドバイスも含めた講演も多くあり、聴いていて有意義なものだった。

Whittingham 博士によるリチウムイオン電池の開発に関する講演は、研究分野の発展について基本的な内容から知ることができ勉強となった。またエネルギー課題についての今後の展望を聞くことができ有意義だった。

Smith 博士の講演においては、ノーベル賞受賞につながった研究内容についての解説ではなく、コロナワクチンの特許に関する話など社会的な内容であり記憶に残っている。スライドを使わない、訴えかけるようなスピーチ能力が強く印象に残った。

Alter 博士による C 型肝炎ウイルスの発見に関する講演は、若手へのメッセージやユーモアを入れ混ぜた内容であったという間の時間だった。困難に立ち向かう力の重要性についての話など、若手を思ったメッセージ性の高い講演であった。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッションにおいて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

全体的な印象として、ノーベル賞受賞者の若手研究者を鼓舞しようとする姿勢が印象に残った。それぞれ質問がなくなるまで真摯に受け答えされており、一流の研究者は同時に一流の教育者だと改めて考えさせられた。

梶田博士からは、基礎研究の重要性、若手研究者が感じる論文を出すプレッシャーについて、学生指導についての考え方、日本における若手研究者の待遇など、多様な内容についての考えを聞くことができた。日本でも若手研究者が研究室を主宰する機会がよりあるべきといった意見を聞くことができたのは興味深く感じた。

Grubbs 博士とのディスカッションでは、私自身も合成したことのある高分子材料の応用の可能性について意見を聞くことができ有意義だった。長年かけても期待する結果がでなかった研究テーマの話聞き、当たり前ではあるが成功の裏では論文には出てこない多くの実験結果もあるのだと改めて実感した。また、

Grubbs 博士と働いた学生と博士研究員の多くがアカデミアで教員として働いており、多数の教員を輩出した Grubbs 博士の教育者としての考えを聞いて良かった。

Feringa 博士の熱意に溢れたディスカッションが強く印象に残っている。どのように研究テーマを発展させていったかなど、若手研究者に対するメッセージ性の高いディスカッションで、参加者にとってモチベーションの上がる有意義な時間だったと思う。

### 3. 諸外国の参加者とのディスカッションにおいて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

Hopin での Networking 機能で諸外国の参加者とディスカッションをした。Networking 機能を使うと同機能を利用している参加者とランダムにマッチングされ、1対1で半強制的に会話を行う機会がセットアップされる。リンダウ会議の前年に参加した Sciathon で初めて使った機能だったが、慣れてしまえば対面で話しかけるより気楽で使いやすく感じた。基本は数分間の制限時間付きで、1人とじっくり話すというよりは、多数の参加者と顔を合わせる機会として利用した。短時間の会話からでもそれぞれの参加者の研究に対する熱意を感じ、より時間をかけて意見交換をする機会を持ちたいと感じた。

コロナ禍で学校に行けない状況で、自宅で子育てをしながら研究室を立ち上げた Junior Professor の苦勞話が特に印象に残っている。ドイツでの若手研究者への待遇や予算の仕組みについてなどを知る良い機会となった。

### 4. オンライン形式でのリンダウ会議において、特に良かったと思うプログラム(イベント)を3つ挙げ、その理由も記載してください。

Open Exchange: ノーベル賞受賞者に対する若手研究者の数が少なく、簡単に質問をしたり、また自分自身の研究内容を紹介したりすることができた。

Panel Discussion: 最近の社会問題に対する多様な考え方を知ることができ興味深かった。

Networking:モチベーションの高い同世代の研究者と意見交換でき良かった。

### 5. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット[具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載してください。]

Networking に参加する中で、異分野の人にわかりやすく、且つ簡潔に研究内容を伝えることの重要性を改めて感じた。化学的な面を省いて内容を簡単にするのではなく、相手の専門に合わせて紹介する研究内容をある程度選択することを意識した。多分野の研究者と仕事をする機会が今後必ずあると思うが、専門的な内容を異分野の人にでもわかるように説明する能力の重要性を再認識した。

## 6. リンダウ会議への参加を通して得られた上記の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

大学での立場などを利用し、これまでの私の海外経験と併せて、海外の研究者の姿勢などを広く伝えることができると考えている。日本の研究レベルは高いと感じる一方で、社会問題に対する発信力や様々な機会への積極性など、研究以外の側面で日本の学生が学ぶべき点があるかと感じた。若手研究者のモチベーション向上につながるような情報提供を行なっていきたい。

## 7. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージ

海外の学生がみせる積極性は、こういった機会に積極的に応募するところでもあらわれていると感じる。優秀な申請者でも時の運で不採択になってしまう現実を理解した上で、失敗を恐れず、少しでも興味があれば応募するのを勧めたい。もちろん採択されるに越したことはないが、不採択となった場合でも申請する過程で何かしら成長できることがあると思う。

採用された暁には、ノーベル賞受賞者や多様な研究者と交流できる時間を最大限に活用し、視野を広げることができれば良いかと思う。